

多様性の花 ミスミソウ



キンポウゲ科のミスミソウは、雪解けの時期に綺麗な花を咲かせることから雪割草の名でも知られています。

日本に分布するミスミソウの仲間としては、ミスミソウ、オオミスミソウ、スハマソウ、ケスハマソウなどがあります。

ミスミソウの最大の特徴であり最大の魅力は、個体変異の豊富さです。

花卉（厳密には萼片）の色をとっても、白、紫、桃、そして青と非常に色彩に富んでおり、さらには花卉の数、雄しべの色、そしてミスミソウ属の見分けの要にもなっている葉の形まで、すべて多種多様なのです。

特に日本海沿岸部の山地に分布するオオミスミソウは、白色が多い関東地方のミスミソウより非常に色彩に富んでおり、愛好家も多いようです。



花卉が12枚あるミスミソウ
と花卉が7枚のミスミソウ

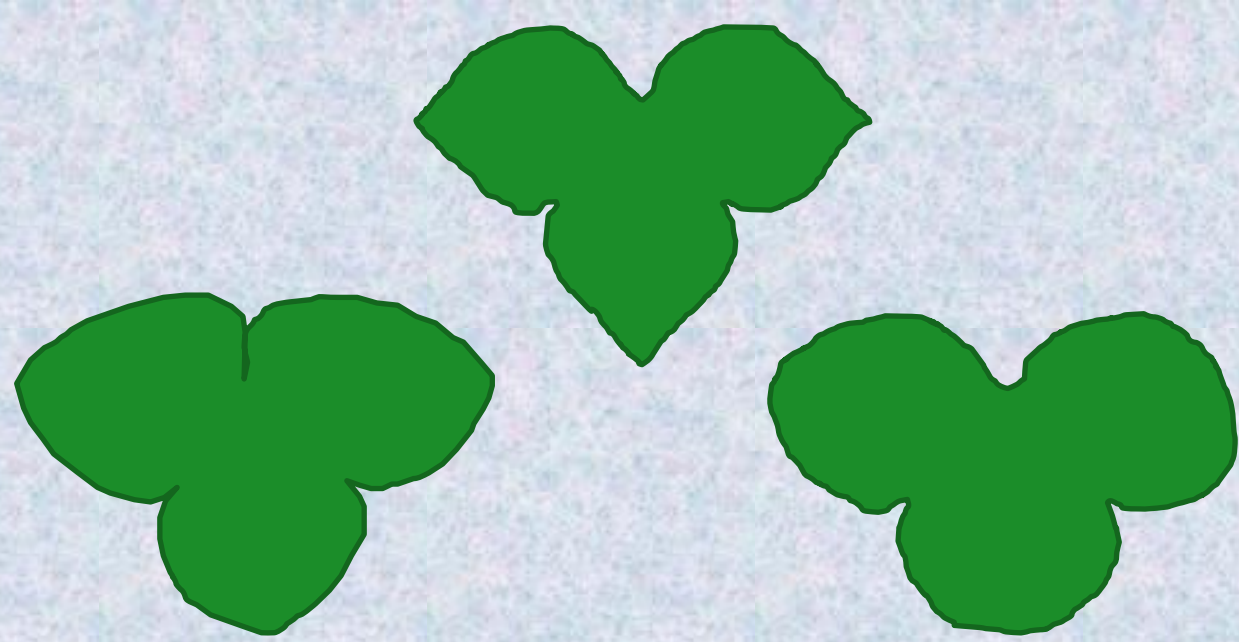
様々な彩りのオオミスミソウ



青いオオミスミソウの花

新潟県のオオミスミソウは色彩が豊かで綺麗な青色のものもある。しかし観賞価値が高いゆえに盗掘され、青い個体は減少傾向にある。これらのオオミスミソウの写真は新潟県の弥彦山で撮影したもの。

ミスミソウの分類



■ミスミソウ

学名：*Hepatica nobilis Schreb. var. japonica*

“三角”の名の通り、葉先が尖って見える。花の大きさは1～1.5cm程度。

■スハマソウ

学名：*Hepatica nobilis Schreb. var. japonica f. variegata*

“州浜”と書くように葉先は三角草に比べて丸みを帯びている。

■オオミスミソウ

学名：*Hepatica nobilis Schreb. var. japonica f. magna*

ミスミソウに比べ、葉や花が一回り大きい。

■ケスハマソウ

学名：*Hepatica nobilis Schreb. var. japonica f. pubescens*

スハマソウに毛が生えたような外観。

ただし前述のとおり、大変個体差が激しい植物なので、ミスミソウなのに葉先が丸みを帯びているものや、スハマソウなのに葉先が尖って見えるもの、さらにはケスハマソウなのに毛がないものもあるので、最終的に判断するにはDNAを調べるほかありません。また、ミスミソウ属とスハマソウ属で分けている場合もあれば、スハマソウもミスミソウ属として扱っている場合もあり、ミスミソウの分類は非常に混乱しています。



典型的なオオミスミソウの葉
葉先が尖っている



オオミスミソウの葉
若干丸みを帯びているが、スハマソウではない

自然界の植物において個体変異が起こるのはそう珍しくありませんが、ここまで外見の違いが顕著に現れるのはミスミソウ以外にないでしょう。

生物多様性が叫ばれる今、多様な美しさを持つミスミソウのような植物は、私たちに多様性の素晴らしさを教えてくれるとても大切な存在なのです。

オオミスミソウの
ブログの記事も
ぜひご覧ください

